

県外から人流入 産業支える活力

総務省が七月二十二日に発表した二〇二〇年国勢調査によると、県内に住み、他県に通勤・通学している人は約五万六千人で、人口に占める割合は3.2%と全国十五番目の高さだった。逆に、他県から県内に通勤・通学している人は約三万一千人で、他県へ「流出」している人数の半分強にとどまっている。

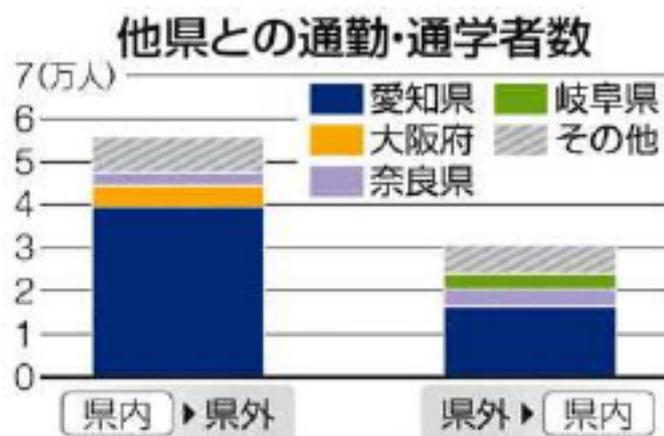
他県からの通勤者が最も多い市町は四日市(23%)で、桑名(20%)、伊賀(14%)、津(8%)、いなべ(7%)、名張(6%)と続く。北中部の市町では愛知や岐阜の両県、伊賀市では滋賀県や京都府、名張市では奈良県や大阪府からの流入が多い。いずれも地理的に近く、規模の大きい事業所が多いことなどが影響しているとみられる。

他県からの十五歳以上の通学者は津、鈴鹿、名張、四日市市の順に多い。大学や専門学校などの高等教育機関があることなどが要因と思われる。

一方、三重から他県への通勤・通学者のうち71%は愛知県で、9%は大阪府、5%は奈良県に向かう。

通勤・通学者は、勤務地や通学場所で働くか消費活動をし、その地域の経済産業を支える活力となる。より多くの県民が県内で就業、通学することや、県外からの一層の流入につながる多様な施策が期待される。

(コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 谷ノ上千賀子)



※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む (百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました)」

2022年8月4日